

日本大学三島高校陸上競技部 50 年ぶり県総合優勝！

6月に入り、各競技インターハイの予選が行われています。

去る5月30日～6月1日、小笠山総合運動公園スタジアム(通称:エコパ)で行われた陸上競技県大会で、ドリカムキャンプ参加常連の日本大学三島高校陸上競技部が、50 年ぶり県総合優勝しました！おめでとうございます！

今回は、日本大学三島高校陸上競技部の田中浩章監督と内村優介主将へのインタビューをお届けします。

静岡県は、東部、中部、西部と三地区に分かれていて、その三地区の予選を勝ち抜いた選手が県大会に出場。県大会で6位入賞した選手が愛知・三重・岐阜を加えた東海大会に出場し、その東海大会で6位入賞して初めて全国総体の切符を手に入れることができます。

現在、静岡県の陸上競技は西部地区が圧倒的に強く、今回の県大会の結果を見ても、日大三島高校のある東部地区の倍以上の選手が東海大会に出場するそうです。その強い西部地区の中でも、男女共に圧倒的な強さを誇るのが浜松市立高校。女子は昨年の全国総体で総合優勝、男子は2007年の全国総体で創部3年目にして総合優勝。ですので、その浜松市立に本気で総合優勝しようと挑んでいくチームは少ないというのが現状だそうです。東部地区にあるチームは特に。

しかも日大三島高校は、過去に全国総体で総合優勝したことのあるチームではありますが、それは50年も前の話です。ちなみにその時の優勝の立役者が、ハンマー投げの室伏広治選手のお父さんである室伏重信さん。全国総体でも出場した投てき3種目を全て優勝したそうです。

今回の日大三島高校の総合優勝は50年ぶり。つまり、全国優勝した年以来ということなのです。

<内村主将>

■ ずばり！今回の総合優勝の勝因は？

今回の総合優勝で学んだことは、チーム1人1人の存在の大切さです。チーム内の誰か1人が優れていても、総合優勝はできません。試合に出た部員は皆の為に顔晴り、応援をした部員は選手の為に精一杯応援をする。各々が自分の役割を見つけ、それぞれの「日本一」を目指したことで、「プラスの気」がチームに満ち溢れていました。それが今回の勝因だと思います。



■ 今回、チームが県総合優勝という目標に向かうにあたり、何が大切だと思っていましたか？

今回、チームが県総合優勝することにあたり、練習環境や支えてくれている方々への感謝、練習中に笑顔でいることが大切だと思っていました。感謝の気持ち、笑顔。この2つが試合中に出すパワーになりました。

■ 今回の総合優勝で学んだ事は何ですか？

総合優勝を手にした時、私たちの中に達成感はありませんでした。それは日大三島にとって県大会が日本一になるための通過点だからです。しかし、県大会で総合優勝を果たした時、多くの方々が感動して声をかけてくださいました。その言葉に更に強くなろう！とチームの団結を感じました。選手も応援をした部員も一人一人が「日本一」を目指すことが奇跡や運を突き動かすこと、高い目標を求めなければ感動は起こらないことを学びました。サポートや応援をしてくださる方々に感謝の気持ちをもっと伝えるために更なる団結力を求め追及していきたいと思います。



<田中監督のお話>

◆今回の県大会に向けて、チームの雰囲気はどうでしたか？

東部大会では男子が6年ぶりの総合優勝、女子は最終種目を同点で迎えながらも競り負けて総合2位という結果でした。女子にとっては、若干の悔しさは残りましたが、男女合わせての得点はトップでありましたので、チームとしては男女一緒に取った男子総合優勝でした。

個々の状態としては、校内選考で落選した選手や東部大会で敗退した選手が、県大会に出場する選手と同じように、各々が決めた「山梨の地で日本一になる」という目標に向かい取り組むことができていましたので、選手間に気持ちの差がなく日々を過ごし、同じモチベーションで県大会を迎えることができていました。

◆陸上競技は個人競技ですので、自己の結果に集中することが大事だと思うのですが、それと同時に、チーム戦ともいえる総合優勝に選手達の心を向けさせるために何を意識させていく指導をされたのですか？

日頃から選手たちには、「自分の技術面や競技に対する姿勢等を含めた改善点を、自分自身で見つけ考えることには限界がある。だから、客観的評価を大切にしろ」と指導しています。つまり、自分のことは周りが気づかせてくれるから、自分は常に他の誰かのことを見ていようという考え方

です。個人が周りに視野を広げ、お互いにアドバイスすることで、チーム全体で一人ひとりを見ることができるようになってきました。そうすることで、自分の気付いていない良さを、チームで引き立てることができるようにもなってきました。また、視野を広げることは選手たちに「チーム（あいつ）のために」という意識を芽生えさせ、チーム力の向上に繋がりました。



◆日大三島高校陸上競技部が掲げるスローガンは「日本一常笑」ですが、今大会では、そのスローガンが結果に結びついた状況やシーンがありましたら教えてください。

初日の男子入賞種目はわずか1種のみ。2日目を終えた時点ではトップをいく浜松市立高校が32得点なのに対し本校は16点でした。最終日も残り2種目の時点で総合順位は4位、浜松市立高校とは9点差ありました。日頃から、マイナス状況を想定した*LMIの実践にこだわってきたことで、どんな状況においてもマイナスをマイナスと認識せずに戦うことができたのだと思います。むしろ、個々が想定したマイナス状況に直面する度に、雰囲気は上昇していったように感じました。

選手たちがお互いに『日本一常笑』という言葉掛け合うことで、県大会は最終目標へ向かう通過点の場であるということを確認しあえたのだと思います。その冷静さが、最終種目での逆転に繋がったと感じています。

*LMIとは、言葉と動作とイメージの3つの頭文字を取ったもの。臼井先生が勤める(株)サンリさんの研究開発したSBT(スーパーブレイントレーニング)の成功メソッドの一つ。

◆最後に、東海大会に向けた指導者としての目標を教えてください。

日大三島らしくたくさんのお喜びをエネルギーにし、選手・サポーター・指導者が一丸となって、どの参加校よりも楽しんで試合をしていきます。愛知県での開催ですが、ホームグラウンドで戦っているかのような雰囲気を作ることが目標です！

